

S A H強化指定選手海外合宿に同行して（雑感）

教育本部 理事 三浦義廣

2014年11月6日（木）6時45分に千歳空港を立ち、成田空港経由でドイツのフランクフルト空港に15時に到着した。（時差が8時間のため、日本時間では23時）

トランジットのためフランクフルト16時45分発のインスブルック行きに搭乗したが、YS11に似た双発機でちゃんと飛ぶのか不安に思ったが17時50分に無事到着した。空港で「北海道スキー連盟 三浦先生」と書いたパネルを持ったタクシー運転手に出迎えられた後、真っ暗な夜道を約1時間30

分突っ走りゾルデンのホテルに着いた。ホテルでは11月3日から来ていた選手団の夕食に間に合い、ビールとワインで乾杯してよいよ合宿同行を開始した。

今回の選手団は、責任者として千葉一之SAJ専門委員、選手は山田卓也、斎藤人之、井山敬介、百瀬純平そして自費参加の木下貴弘（小樽）の6名だった。

小生が同行することになったのは、2年前に千葉君と約束していたため、10月に世界女子バレーでイタリアに行ってきたばかりなのに、懲りずに全額自費で参加した。

旅行費用は、442,880円だったが、スキークラス（8日間）で214€、レンタルスキーが192.5€、毎夕食のワイン代が540€（27€×2本×10日）、さらに小生の部屋での食前Barと食後のNight-Barのビールやハムなどの経費がかかったが、カード決済したため、持参した現金が計画より多く残り負担感は少なかった。（来月の清算が恐ろしい）

日本では、話す機会が少ない千葉君や選手たちと一日中行動を共にして、様々な情報や考え方を聞くことができたとともに、毎日のスキーや陸上トレーニングに臨む意欲を見ることができ、さすがに強化指定選手であることを再認識した。

ゾルデンを合宿地に選んだ理由は、ワールドカップ第1戦の会場で、11月でも十分にトレーニングできると判断したとのことで、標高がホテルで1,377m、スキー場が2,675m、山頂が3,219m、そして主な練習バーンは氷河が残る常時日蔭の2,993mから2,675mの30度以上の急斜面で硬いバーンだった。



北海道選手団と共に...



SÖLDEN スキー場にて

このスキー場は、RETTENBACHとトンネルで山を潜り抜けるTIEFENBACHの大きく二つあった。（ちょうど富士山をトンネルで突き抜けた表裏のスキー場）

選手たちは、主にRETTENBACHの急斜面で千葉君がビデオを撮影し、一本滑るごとにチェックし、自己確認するとともにアドバイスを受けていた。

長野県連の若手女子や韓国選手3名が同じ場所で合宿をしていたが北海道選手団の技術は数段上

回っていた。また、今年度から技術選に出場する(?)皆川健太郎選手が突然現れて井山選手と意見交換していたのも特記すべきことだった。

ゾルデンには、オーストリアはもとより、ドイツ、ロシア、フランス、アメリカなどから大勢のスキーヤー(シニアのご夫婦が目立った)が来ていて、土日は8人乗りのゴンドラが長蛇の列を作る程だった。(さすがにスキー王国の感ありでした。)

小生は、せっかく来たので全コース滑走しようと思い、選手の練習は時々見る程度にして毎日自主トレし、目的を達成したが、11月11日にはトンネルを通過してTIEFENBACHで滑っていたところ、強風でRETTENBACHに戻る連絡リフトが止まってしまい、戻れなくなってしまうアクシデントがあった。

タクシーも見当たらず、止む無くチケット売り場の人に尋ねたところ「臨時バスがある」と教えられ、トンネル(自動車専用)を通る臨時バスで選手たちがいる所に戻ることができた。(ここに何回も来ている選手は、臨時バスで戻ることを知っていたとのことでした。事前の下調べ不足を反省しました。)

ゾルデンは、山間の細長い街で、毎朝のウォーキングで片道45分の距離に多数のホテル、スキーショップ、レストラン、スキー学校、パル、スーパーマーケット、教会があるスキーリゾートでした。毎食ホテルのため、街には買い物に出かけるだけだったので、現地の人との交流はできなかったが、チロルの雰囲気は味わえた。

ホテルは、街外れにあり、地上4階、地下2階で内装も新しく綺麗で、バス・トイレ・洗面台も清潔で10日間を満足して過ごした。また、地下にトレーニング室、サウナ、プールがあり、選手は、トレーニングとサウナ、小生は毎日、サウナを利用した。(※サウナは、男女混浴で全裸、タオルで隠すだけでした。)



SÖLDENのALPHOF全景

朝食は7時からでホットミールもコールドミールもあるバイキングでミルク、数種類のジュースもおいしかった。スキー場での昼食は、レストランのメニューが高くておいしくなさそうだったので、朝食時にサンドイッチを自作して持って行って食べたが、経費節減と好みの食事ができて良かった。夕食は7時からだったので6時に小生の部屋のBarで食前酒を飲んだ後に食べたが、毎朝選んだコース(魚、肉、野菜のいずれか)料理もおいしく満足したが前菜のバイキングで腹いっぱいになってしまうほどであった。

例年より天候に恵まれなかったとのことだったが、快晴の日に頂上で絶景を見ることができたとともに、雲の中で全く視界が利かない機会も経験できて良かった。ただ、山に持参した水のペットボトルが、ホテルに持ち帰ると皺皺(しわしわ)に変形していて気圧の変化の恐ろしさを知り、高山病にならなくて良かったと胸をなでおろした。

11月15日(木)9時にマイクロバスでゾルデンを出発し山越でドイツのミュンヘンに向かい13時20分に空港に到着した。ミュンヘン発15時15分の羽田行きに搭乗し帰国したのは16日の13時だったが、成田空港より羽田空港は北海道に帰るには大変便利だった。来年は、技術員のツアーを組みたいものだ。